

1. 今回の取組について

- ・現在進めている「えき～まち空間」や三宮クロススクエアを含めた大きな都市再編が、今回の感染症対策をきっかけに、より魅力あるものとなることが大事。
- ・官がイニシアティブをとって姿勢を示しつつ、官民が連携して一体的な空間作りをすることが重要である。

2. ガイドラインの対象エリア

- ・あくまでもモデル対象地区であるということを知りやすく表現してもらえると、周辺地域にも（取組が）広がっていくと思う。

3. 屋内空間のチェックリストの素案

① 提出時期について

- ・チェックリストの提出時期について、テナントの入替時にも入れたほうがよい。

② 対象用途について

- ・主な対象は事務所と店舗としても、宿泊施設のロビーなど不特定多数の方が出入りする場合は対象にしたほうがよい。
- ・対策・対応が用途によって異なるため一括りにできない。例えば、駅を対象にして、換気設備等についてこのチェックリストが適用できるかというところ少し難しいと思う。

3. 屋内空間のチェックリストの素案（続き）

③ 身体的距離に係る項目について

- ・「位置情報の可視化」はイメージが湧きにくいところもあるので、具体例があるとよい。何か事例がカッコ書きでも示されているとよい。

④ 換気に係る項目について

- ・「CO2濃度の監視」について、個別の濃度測定器は風が当たれば数値がすぐ下がってしまうものなので、設置場所についても効果のある設置方法についての注意書きが必要である。
- ・「高効率な換気設備」について、居住域での規準化居住域濃度の実測や計算値がチェック可能だと思うが、設計図書の中からはチェックが難しいだろう。

⑤ その他

- ・建物の配置計画について、感染症に強いものになっているかということがとても大事。配置計画を提出するということで対策について考えるだろう。
（例えば、「感染症対策の意識付け」において、感染症対策について事前検討ができていないかという点で、「配置計画も含む」などをカッコ書きで付記）

第2回検討会でのご意見

4.屋外空間の取組の素案

①取組の可視化について

- ・百貨店や大規模商業施設については、特に土日や夕方などの混雑時、混み具合を表示できるようにしてもよいと思う。屋外空間では、規模の大きいイベントに限って、デジタルサイネージ等で混雑度を表現するのもよい。

②自転車の利用促進について

- ・自転車の利用促進はよいと思う。合わせて、駐輪場の整備と、自転車走行空間が路上駐車の場合にならないような配慮が必要ではないか。

③感染症対策と都市の価値について

- ・3人掛けベンチの真ん中を構造的に座れないようにするといった対策は今必要かもしれないが、50年100年の計画で考えた場合、良い施策とは言えないのではないか。可動式の椅子の方が素敵で魅力的であるし、都市の価値を高めるのではないか。

④オープンスペースのあり方

- ・歩行者利便増進道路制度も含めて道路で過ごすことが当たり前の世の中になってくる中で、各オープンスペースを繋ぐ空間そのものの快適性も重視する必要がある。
- ・風の話も重要である。神戸は東西の道路空間がしっかりしており、南北の抜けがおそらく風環境にすごく効いてくると思う。